

研究名

下痢症ウイルス感染症の疫学調査と流行制御に向けた基礎的研究

研究の目的と方法

下痢症（胃腸炎）を引き起こす主なウイルスとしては、ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等があります。これらのウイルスに感染すると下痢・嘔吐等の胃腸炎症状を引き起こして、重症化すると脱水症を始め様々な合併症を招いて入院による治療が必要となるケースも多いです。特に小児や高齢者では重症化しやすく、集団生活の場では集団感染を引き起こすことも珍しくありません。また、食中毒の原因となること多く、社会活動や経済活動にも影響を与えることから、公衆衛生上および経済上の面からも制御すべき重要な感染症と位置付けられています。このような下痢症ウイルスの流行状況が、2020年以降のコロナ禍およびロタウイルスワクチン定期接種化を経て、どのように変化しているかを継続的に調査するのはとても重要なことです。

本研究は、これまでに国立感染症研究所ウイルス第二部、および感染症疫学センター（現 感染症危機管理研究センター）が実施してきた下痢症ウイルスの疫学研究を引き継ぎつつ、そこで得られた試料を下痢症ウイルスの基礎的研究にも活用できるように発展させるものです。本研究から得られる成果は、下痢症ウイルスの流行状況の現状把握に留まらず、流行予測、検出法の開発・改良、ワクチンや抗ウイルス薬、消毒剤の開発・評価等、幅広い研究の発展に繋がり、国民の健康維持、疾病による社会的・経済的損失の削減に寄与すると期待されます。

本研究は、国立感染症研究所、および下記の地方衛生研究所や大学と関連医療機関が連携して行います。遺伝子解析の対象は試料中のウイルスのみであり、提供者が特定されるような解析は行いません。また、研究の成果は学会や学術誌での発表、ガイドライン作成に使用します。その際にも、対象者のお名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。

研究に用いる試料・情報

試料は、過去に研究目的のために国立感染症研究所に搬入された検体、各地方衛生研究所が病原体検査依頼を受けた試料の残余を使用します。また、札幌医科大学とその協力医療機関においては、患者または代諾者（保護者等）から同意が得られた場合にのみ試料が採取されます。国立感染症研究所、北里大学、群馬パース大学には、試料の個人情報を削除し、匿名化された（識別番号が振られた）上で送付され、研究に用います。各地方衛生研究所においては、他の情報と照合しない限り特定の個人を識別することができない仮名加工情報とした上で、試料の一部を用いて基礎研究を行うこともあります。

この研究に試料や情報を提供したくない場合

本研究に試料や情報を既に提供して頂いた方の中で、この研究に協力したくなかった方は、下記までご連絡下さい。研究への協力に同意頂けなくなった方の試料や情報は、本研究に使用しません。ただし、ご連絡を頂いた時点で既に研究結果が論文などで公表されている場合などは、データを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなることもあります。

研究期間

2024年3月13日から2029年3月31日まで

研究組織

国立感染症研究所

北里大学

群馬パース大学

順天堂大学

東京都健康安全研究センター

山口県環境保健センター

大阪健康安全基盤研究所

札幌医科大学および下記の協力医療機関

<協力医療機関>

NTT 東日本札幌病院、JCHO 札幌北辰病院、国立病院機構北海道医療センター、札幌東豊病院、小樽協会病院、留萌市立病院、岩見沢市立総合病院、滝川市立病院、砂川市立病院、苫小牧市立病院、浦河赤十字病院、製鉄記念室蘭病院、八雲総合病院、市立函館病院、市立釧路総合病院、市立根室病院、北見赤十字病院、なかた小児科、にひら小児科医院、とまこまいこどもクリニック

試料・情報の管理について責任を有する者

国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター 総括研究官 影山努

北里大学 大村智記念研究所ウイルス感染制御学 教授 片山和彦

群馬パース大学大学院 保健科学研究科 教授 木村博一

順天堂大学 薬学部 教授 山地俊之

東京都健康安全研究センター 所長 吉村 和久

山口県環境保健センター 所長 調 恒明

大阪健康安全基盤研究所 主幹研究員 左近 直美

群馬県衛生環境研究所 所長 猿木 信裕
栃木県保健環境センター 主任研究員 斎藤明日美
茨城県衛生研究所 首席研究員兼ウイルス部長 阿部櫻子
札幌医科大学 小児科 教授 津川 豪

お問合せ先

〒208-0011

東京都武蔵村山市学園 4-7-1

国立感染症研究所

感染症危機管理研究センター

影山 努（研究責任者）

Tel: 042-561-0771